

県西地区地域包括ケア会議・県西地区在宅医療推進協議会  
合同会議に係る Zoom ミーティングの概要

日 時	令和 5 年 5 月 22 日（月）14 時～15 時 6 分
方 法	オンライン（Zoom）
出席者	24 機関 35 人（委員 24 人 事務局 11 人）

## 1 目的

・令和元年度以降、書面会議が続き、顔を合わせる機会を持たず、構成員が抱えておられる課題等の共有が難しい状態が続いたこと、また令和 4 年度の県西地区地域包括ケア会議・県西地区在宅医療推進協議会にて、峯尾会長より、「関係機関の顔合わせの機会」を持つことを勧めていただいたこともあり、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変更となったこのタイミングで、急遽開催することとした。

・会議という形式にとらわれず、ご出席された各分野のエキスパートの皆様同士、自由に情報や意見交換をすることが第一の目的である。

## 2 内容

（1）令和 4 年度までの取り組みについて（事務局説明）

（2）グループワーク

2 つのテーマについて 30 分程度グループワークをおこなった。

（主な発言等）

① 医療と介護現場の連携における困難事例について

- ・病院の面会が出来ないと家族が患者の現状を把握することが出来ず困る。
- ・医師とのコミュニケーションはコロナで取りにくくなった。
- ・サービス担当者会議にもっと医師に参加してほしい。
- ・認認介護、老々介護の課題（服薬など、療養上守らないといけないことを忘れてしまう）には他職種連携が必須。
- ・アプリやお薬手帳などツールがあっても高齢者、認知症等の方には扱いが難しい。

② 5 類移行したコロナウイルス感染症に関し発生した（している）介護・在宅療養における課題

- ・5 類に移行しても、発熱患者に対しては今までと変わらない対応をせざるを得ない。

- ・コロナ禍でも高齢者が相談できる地域の仕組みが必要。相談先は行政ではなくても、地域資源の専門職でもよく、仕組みができればよい。
- ・元々看護・介護人材は離職が多く、コロナで拍車がかかった。

### (3) 峯尾会長から講評

- ・3年ぶりの顔合わせ、有意義であった。
- ・コロナで経験した問題については今のタイミングで医療・介護等の現場ごとでアーカイブしておくとういのは。
- ・“医師とのコミュニケーションの取り方”については、原則のシステムがあればいいということでもない。積極的に関わりを持っている医師もあり、連携パスでは個別性の相談対応が可能である。
- ・コロナ禍のまとめをやっていただきたいと思う。

### 3 まとめ

- ・今回の合同会議ミーティングはじめ、オンラインでは会場への移動がないことがよい点といえる。これは感染症対策としてZoomなどを活用してきた経験が生かされている。
- ・今回はキックオフ、リスタートという機会として、委員の皆様と情報共有することができた。コロナ前の地域包括ケアシステムに戻るといよりは、感染症を踏まえた体制を見直すことも行っていきたい。

以上